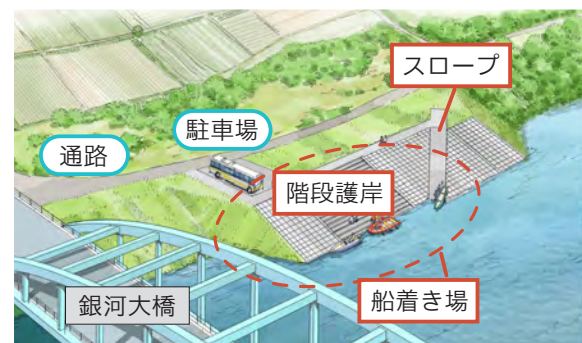


■国が整備 ◆市が整備 既存施設

銀河大橋のたもと



水上アクティビティの充実
■花巻スポーツランド（北上川フィードドライブ）が、行っている北上川の川下りのスタート地点である銀河大橋付近へ船着き場機能付き低水護岸を整備し、安全でスムーズな船への乗り降りができるようにします
◆川下りのスタート地点に、団体客などに対応するための大型バスの駐車・転回スペースを整備します

計画に記載されたハード整備の一部を紹介します

「花巻地区かわまちづくり計画」が国土交通省のかわまちづくり支援制度に登録されました

【問い合わせ】新館道路課（☎41-3559）

かわまちづくりとは？

「かわまちづくり」とは、河川空間とまち空間が融合した、にぎわいのある良好な空間形成を目指す取り組みのことです。また、このかわまちづくりの取り組みについて、河川管理者である国土交通省が支援する制度を「かわまちづくり支援制度」といいます。

本市と花巻地区かわまちづくり計画策定協議会が国に申請していた、銀河大橋周辺から花巻南大橋周辺の北上川の河川空間を活用した「花巻地区かわまちづくり計画」について、8月1日に国土交通省のかわまちづくり支援制度に登録されましたので、その概要をお知らせします。
※計画について詳しくは市ホームページをご覧ください



花巻地区かわまちづくり計画の概要

観光集客力向上とにぎわいの創出を図ります

市内を流れる北上川の周辺には、宮沢賢治ゆかりのさまざまな歴史や

◆川下りのゴール地点である花巻スポーツランド付近へ、川下り後に利用者が使える更衣室やシャワー施設、トイレなどを整備します

水辺プラザ（イギリス海岸）の活用
■イギリス海岸周辺のステップ段差が大きい水辺プラザの階段護岸を、段差が小さい階段護岸へ改良します

◆水辺プラザの森公園やイギリス海岸付近さわやかトイレを洋式化するほか、イギリス海岸を撮影できるようなスポットの整備や案内板の整備を行います

イベントの展開

■北上川河川敷（朝日橋から朝日大橋までの区間）での各種イベントの利便性や河川敷の利用増進を図るため、河川管理用の既存坂路の拡幅改良整備を行います

■河川敷内のイベント広場を管理するための管理用道路を舗装し、利便性の増進を図ります

◆各種イベント時に利用できる、常設トイレを朝日橋付近の河川堤防上に整備します

◆朝日橋河川敷にイベント時の臨時駐車場スペースを整備し、普段は草地広場として活用します

◆朝日橋から河川敷に降りる坂路下付近に日常利用可能な駐車場を整備します

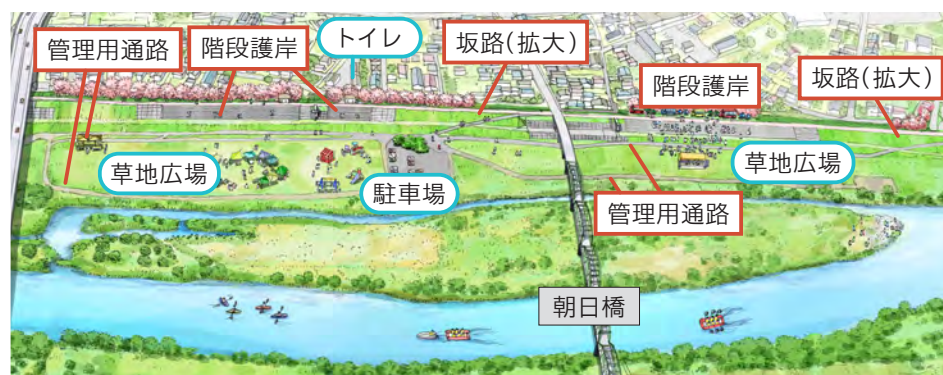
観光施設があります。また、北上川を活用したアクティビティなど、観光や教育資源による地域の価値を高める素材が数多く存在しています。
本計画は、そのような資源を活用し、北上川の河川管理者である国土交通省と本市がハード整備を行うことで、すでに北上川をフィールドとして活動している北上川フィールドライフクラブなど各種団体の北上川周辺での活動と、集客力のある市内の温泉郷や宮沢賢治ゆかりのスポットが点在する市街地を結び付け、にぎわいを創出しようとするものです。



堤防の機能強化にもつながります

国土交通省が実施するハード整備の一つに「階段護岸整備」があります。現在、北上川の堤防は河川敷朝日橋から朝日大橋までの区間で、花火大会イベントなどで観覧席として

北上川河川敷周辺（朝日橋～朝日大橋間の河川敷）



体験型アクティビティの創出

◆川下りの途中下船ポイントとして、宮沢賢治ゆかりの「下ノ畑」付近へ新たに船着き場機能付き低水護岸を整備します
◆休憩や観光立ち寄りスポットとし



でも利用されていますが、席が少ないため、河川堤防の傾斜した土手に座る人がいる危険な状況もみられます。
そこで、イベントなどで観覧席としても利用可能となる階段状のコンクリート製護岸を整備することで、結果として堤防の機能強化につながるなど、地域の安全性の向上が期待できます。



▲階段護岸のイメージ

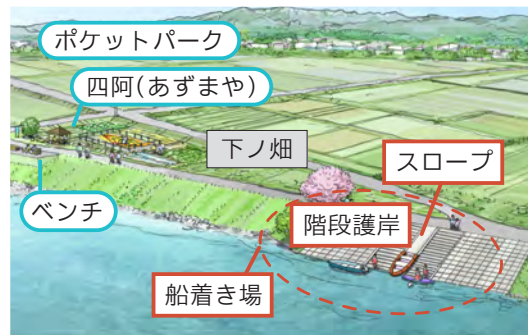
今後の展開

本年度中に「花巻地区かわまちづくり推進協議会」を設立します。令和8年度から順次整備されるフィールドを活用し、民間事業者などが行う、にぎわいを創出できるような事業について、同協議会の中で検討し、実施していきます。



て、「下ノ畑」ポケットパークを整備。ベンチや四阿を設置します

賢治ゆかりの地である「下ノ畑」



今後、詳細な設計などを行う中で、実施内容を変更する場合があります。
なお、市が実施する予定の施設整備について、現段階で市負担額は約3億円ですが、その財源として国の補助が受けられるよう働きかけていくこととしています。
また、国の補助が受けられたとしても、事業費の一部は整備時に市が負担することとなりますので、その市負担分は、市の基金や一般財源のほか、充当率95%、交付税措置70%の非常に有利な起債（借金）である合併特例債を活用することも検討していきます。